

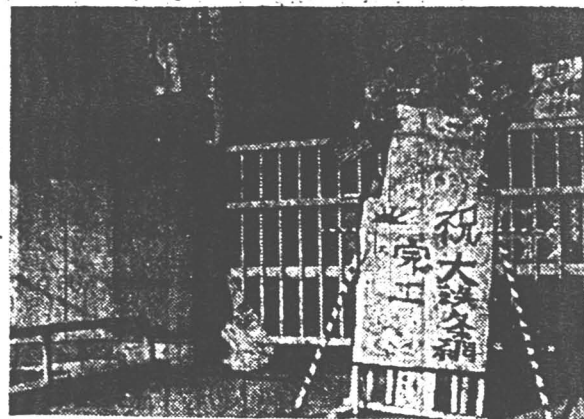
# 混迷深める救済運動

## 水俣病 各団体も活発に動く

水俣病新認定患者十八人(熊本十六人、鹿児島二人)はチツソに抗議して一日からチツソ正門ですわり込みを続けているが、これらを含めて須知水俣市ではさまざまな情報の流れ、行動が起きている。二つの署名運動は収束状態にはいり、これに対し新認定患者の公開質問状が次々と出され、さらにはこの質問状に対する回答があり、これに網をかぶせるようにイデオロギーを抜きにして全市の合意を一時呼びかける動きもある。また匿名でチツソ、患者、請団体に質問するものも出てきた。

○「水俣市民公衆対策協議会(船橋信夫発起人代表)と自民党など請団体の長の署名運動はそれぞれ二万人以上を突破し、市に働きかけを始めてつづいている。おもな内容は患者の行政的救済を強く働き

かけるものだった。しかし「チツソ」ことから新認定患者の川本寛夫の企業責任に「触れてない」とい。さん(市)らが反発、公開質問状を



チツソ水俣工場の有刺鉄線工事を風刺した花輪

つぎつけていた。これに対し自民党支部長兼宮田文氏らは三日回答を寄せ「強力な水俣病患者救済の施策を国、県に要求する運動に焦点をすぼめた」と述べている。

しかし患者側はこれでは答えないとして、川本さんらが被爆支部長らの家を一新々々歩いて回ったという意向。川本さんらはすわり込みを続けていくが、機会をとらえては行動に移している。患者たちがすわり込んでいる目の前のチツソ正門付近では現在有刺鉄線を張る工事が続けられているが、三日には支請団体とみられる人が「祝大鉄条網工事」と書いた花輪を供えるなど笑いを誘う場面もある。有刺鉄線工事は告発する会が正門を乗り越えたあと始められた。

○「同市では矢野喜草の公開質問状やその他のしつなご文書の

洪水になっているが、共産党同市支部はこれらを静かに見守っている。三日になって動き始めた。

「一致を見出せるものからまず解決しようではないか。慰問信条の違いを乗り越えて人道的立場から対処しよう」と自民、社会、公明

の各党と水俣病新認定患者、一任派、新認定患者などに申し入れ書を手配した。各団体とも検討を始めている。